

情勢報告（令和3年6月分）

中央東農業振興センター嶺北農業改良普及所

HACCPの対応を確認！

～「小規模な食品事業者向け HACCP 研修会」を開催～



衛生管理計画作成に
熱心に取り組む参加者

5月31日、普及所は本山町プラチナセンターにおいて、「食品加工に取り組む農業者等、小規模な食品事業者向け HACCP 研修会」を午前と午後に分けて2回開催し、嶺北地域の4町村から63名の食品事業者や関係者が参加しました。

研修会では、中央東福祉保健所担当チーフを講師に招き、HACCPの概要を講習した後、衛生管理計画の作成実習を実施しました。

参加者から、「講師に質問しながら計画を作成できて良かった」、「帰ってから計画をしっかりと仕上げる」といった声が聞かれるなど、研修会に満足している様子が見られました。

今後も普及所は、6次産業化商品などの加工品の安全・安心に向けて、食品加工に取り組む農業者への支援を続けていきます。

梅雨を乗り切る管理 ～カラーピーマン現地検討会～



みんなで情報交換

6月4日、JA高知県れいほくカラーピーマン部会は現地検討会を開催し、生産者14名が参加しました。

普及所からは、曇雨天が続く際の栽培管理と病害虫対策、そしてこれから発生が危惧される腐敗果への対策について説明しました。

JAからは、ほ場の耕種概要とGAPの取組について説明がありました。

生産者からは、病害に効果的な薬剤や防除のタイミングを中心に様々な質問が出され、生産者間で活発な情報交換が行われました。

今後も普及所は、講習会や現地検討会を通じて、カラーピーマンの収量・品質向上に向けて支援していきます。

先進地との交流会！ ～土佐甘とうもろこし慣らし会・現地検討会～



栽培について話し合い

6月10日、JA高知県れいほく土佐甘とうもろこし部会は慣らし会と現地検討会を開催し、生産者14名が参加しました。

会には、土佐甘とうもろこし栽培の先進地である津野山地域の生産者やJA担当者等が参加され、栽培管理や病害虫防除について助言を得ることができました。

普及所からは、収量・品質向上に向け普及を進めている、着果量を制限して収穫量の山谷をなくす整枝方法について周知しました。

生産者からは、「津野山の生産者から教わったことを活かして収量を増やしたい」、「整枝方法を工夫したい」との声がありました。

今後も普及所は、課題解決のための提案や生産者の情報提供の場づくりを通じて、土佐甘とうもろこしの生産安定に向けて支援していきます。

ユリ作業の更なるカイゼンに向けて ～Web 会議を活用した指導～



Web 会議でカイゼン指導する
普及員（右下）

6月15日、普及所は大川村のユリ栽培でのカイゼン指導をWebを活用して行い、園主及び従業員計6名が参加しました。南国市の会場のカイゼンマイスターと現地ユリほ場をZOOMで接続し、定植や芽出し作業のカイゼンを生産者とともに検討しました。

生産者からは「腰を曲げたり、しゃがむような負荷の大きい作業をできるだけ減らしたい」「これからも継続してカイゼンをすすめたい」と前向きな意見が聞かれました。

今後も普及所は、作業の効率化・省力化に向けて支援を継続して行きます。

梅雨を乗り切る管理 ～米ナス現地検討会・目慣らし会～



梅雨期の管理について
説明する普及員（右）

6月16日、土佐町でJA高知県れいほく園芸部米ナス部会現地検討会・目慣らし会が開催され、生産者10名が参加しました。

普及所から硫黄粉剤の継続使用と換気による病害対策、一芽切り返しについて説明しました。参加者からは「夜は雨が心配だが、天窗の換気はどのくらいにすればいいか？」という声が聞かれる等、病害対策の重要性を理解してもらうことができました。

今後も普及所は、栽培管理技術の向上を目指し、巡回指導や講習会を通じて支援していきます。

酒米の品質向上に向けて ～第1回土佐酒造酒米生産者組合現地検討会～



ほ場点検を行う普及員と
生産者ら

6月18日、土佐酒造酒米生産者組合が本山町、土佐町で現地検討会を開催し、生産者10名、土佐酒造職員4名が参加しました。

組合では、化学肥料や化学合成農薬の使用量を慣行の1/2以下にした特別栽培で‘吟の夢’を生産しており、GAPにも取り組んでいます。

普及所から今後の栽培管理や病虫害対策の注意点を周知した後、現地で生育状況の確認や、GAPに基づくほ場の点検を行いました。生産者からはウンカ等の病虫害対策や、中干しの方法について質問や意見が多く出され、高品質な酒米生産に向けた意欲がうかがえました。

今後も普及所は、酒米の収量・品質向上につながる活動を支援していきます。